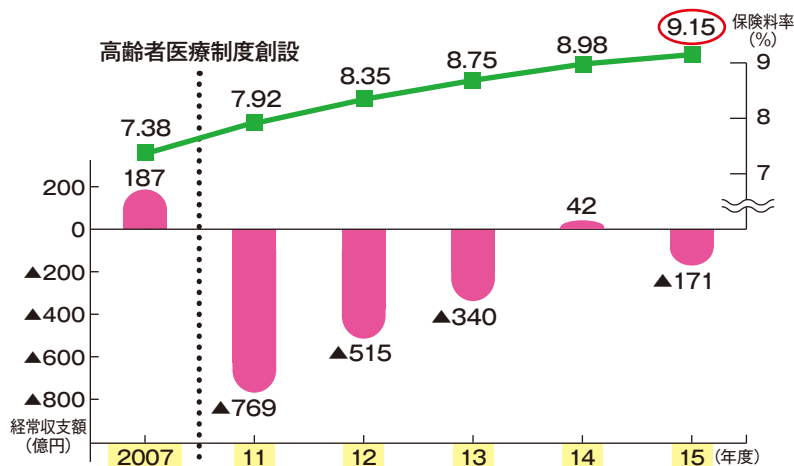


苦境続く大阪の健保組合財政

過去5年間の 経常収支と保険料率の推移



保険料率引き上げの状況

	組合数	保険料率 引き上げ組合数
2011年度	178	61
2012	174	88
2013	168	65
2014	168	55
2015	166	38

* 2011～14年度は決算数値、15年度は予算数値。

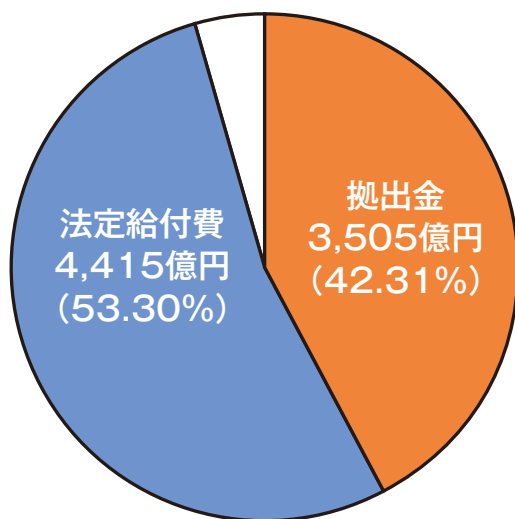
- ◆大阪府下166健保組合の2015年度予算では、経常収支は171億円の赤字です。赤字組合は115組合（69.3%）にのぼっています。
- ◆2014年度は42億円の黒字決算となりました。しかし、その要因は景気好転の影響よりも、むしろ保険料率引き上げが大きく反映しています。
- ◆2008年度の高齢者医療制度創設以降、保険料率を引き上げた健保組合が続出した結果、平均保険料率は毎年上昇し、2015年度には初めて9%を超えました。

健保連のコメント

2015年度と2014年度を比較すると、保険料収入の増加分の4割（増収要因の第1位）は保険料率引き上げの影響によるものである。

大阪府下の健保組合 保険料収入の半分近くが高齢者医療拠出金

保険料収入 8,284億円



(2015年度)

- ◆健保組合が赤字体質から抜けきれないのは、高齢者医療へ巨額の拠出金を毎年支出しているためです。
- ◆保険料収入に対する拠出金の割合は、2008年度からずっと40%を超え、そのため健保組合数が10%以上減りました。

健保組合の声

現役世代が、高齢者医療へ応分の負担をしなければいけないのは理解できる。しかし、当組合の拠出金の比率は52.5%、保険給付費は39.0%。保険料の半分以上が高齢者支援に回り、自分たちのために使えるのが4割弱というのでは、まるで逆だ。（大阪連合会機関誌「かけはし」8月号投書欄より）